



令和 5 年 3 月 24 日

広島大学附属学校園の機能強化策について

広島大学附属学校園の機能強化策について、令和 9 年度までの取組みの方向性を整理した。概要は以下のとおりである。

< 東広島地区・三原地区 >

【概要】

令和 6 年度より「広島大学附属幼稚園」及び「広島大学附属三原幼稚園」を統合（1 園 2 園舎）し、広島大学附属幼稚園（東広島園舎・三原園舎）とする。

幼小連携教育の強化、幼年教育研究機能の拡充など、プレスクールとして先導的なモデル園となるよう、両園の更なる連携に拠った機能強化を図る。

【学級数、定員】

各園の学級数、定員の変更はなし。

< 福山地区 >

【概要】

令和 9 年度より「広島大学附属福山中学校・高等学校」を年次進行によって「広島大学附属福山中等教育学校（仮称）」に改組する。

中等教育と高等教育の接続を視野に入れた先導的実験カリキュラムの開発等が実施できるよう、機能強化を図る。

【学級数、定員】

1 学年 4 学級（各学級定員 32 名）とし、完成年度となる令和 14 年度の学級数は現状と同じ 24 学級となる。

【お問い合わせ先】

教育室附属学校支援グループリーダー 森根
TEL:082-424-6961, FAX:082-424-6968

広島大学附属学校園の機能強化策（2023.3）

構想中

構想：11学校園 ⇒ 9学校園 各学校園の連携強化・機能の充実

東広島地区

< 令和4年度現在 >

三原地区

広島大学附属幼稚園

3クラス（3歳児20人,4歳児30人,5歳児30人）→ 80人

広島大学附属三原幼稚園

3クラス（3歳児20人,4歳児30人,5歳児30人）→ 80人

令和6年度に統合（1園2園舎化）

地域及び性格を異にする2園での教育研究活動を、両園の更なる連携に拠って一体的に推進できる体制とする。幼小連携教育の強化、幼年教育研究機能の拡充など、プレスクールとして先導的なモデル園となるよう、大学の附属幼年教育研究施設と共に教育研究の一層の活性化を図る。

広島大学附属幼稚園（総クラス数・総園児数の増減なし）

東広島園舎

3クラス（3歳児20人,4歳児30人,5歳児30人）→ 80人

三原園舎

3クラス（3歳児20人,4歳児30人,5歳児30人）→ 80人

福山地区

< 令和4年度現在 >

広島大学附属福山中学校

40人×3クラス×3学年 → 360人

広島大学附属福山高等学校

40人×5クラス×3学年 → 600人

令和9年度に「中等教育学校」に改組

中等教育学校の教育課程の特例を活用し、中高一貫教育による中等教育カリキュラム並びに指導形態の開発と実践を行い、国際標準の学力を育成するためのグローバルな課題探究を中心とした次世代カリキュラム開発校とする。高大連携の下での授業設計の実施・STEAM教育の推進などにより、教育研究の一層の活性化を図る。

広島大学附属福山中等教育学校（総クラス数の増減なし、総生徒数は192人減）

前期課程

32人×4クラス×3学年 → 384人（+24人）

後期課程

32人×4クラス×3学年 → 384人（-216人）